

受験番号

- ※答えはすべて解答用紙に書きなさい。 ※選んで答える問題は記号で答えなさい。
- ※特にことわりのないかぎり、句読点やかきかっちはすべて字数にふくみます。
- ※設問の都合上、本文に一部省略があります。

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ナマコやクラゲが何をどう感じているのか、何がイヤで何に楽しみを感じて暮らしているのか、果たしてぼくらにわかるだろうか？人間は二つの目で世界を一つの像として見ているけれど、それ以上にたくさん目が集まった複眼をもつ虫たちには、世界がどのように見えているのだろうか？

キノコといった菌類となると、もう完全に **A** だろう。

まったく自分の感覚が通用しない存在がある。文学や学問の世界では、それをよく「他者」という言葉で表現していて、ここでもそう呼ぶ。まだ理解の及ぶ「他人」よりも、もともと根本から自分とは立場のちがう、わからない存在としての「他者」。

しかし、本来は決してわかりようがないものを、瞬間的に理解したような気持ちにさせる方法がある。人間ではないものを人間のように描く「擬人化」である。先ほど、キノコなどの菌類が世界をどう感じているかの想像は「完全に **A**」と書いたけれど、イラストで雫耳を描き、そこに顔が描かれていたら、どうだろうか。《 I 》「原木(ぬぎ)殿で、ボクこんなに大きくなったよ！」なんてセリフもつけられていたら。わからなかった存在が、一気に親しみのある存在に変化した感じがしたでしょう？

ぼくらはそのように、擬人化を通して、鳥や魚や蛇やナマコやクラゲ、さらに虫やキノコのことまでも、本質的にわからない相手を、話が通じるかもしれない存在としてとらえ直している。さらに生きものだけでなく、山や岩や川や海、台風にまで、擬人化の効用はあるだろう。擬人化とは、《 II 》つながるはずのないもの同士の世界をつなぎ、理解に誘う(まよ)万能の魔法といえる。逆にいえば、ぼくらは擬人化を通さなければ、わからない相手のことを自分の中にとらせることができないのだと思う。

「先生、ぼくは何も知りませんでした」

お気に入りの浅い箱に入った(お)クロスケ先生を前に、ぼくは **B** 座して深々と頭を下げた。クロスケ先生は箱のへりに両方の前足を置いて寝そべっていて、大変えらそうに見える。

「ぼくら人間は、こんなにも、全然ちがう生きものたちに囲まれていたんですね」

クロスケ先生は表情を変えず、泰然とぼくを見上げていた。(お)チャシロ先生が遊びたそうに、ぼくのお尻に頭をそとこすりつけていく。

「でも、たとえば先生だって、ぼくらと全然ちがう生き方ですよ。なのに、どうして「箱」に暮らせるんでしょうね？」

そのとき、気持ちよさそうに尻尾を振っていた先生は、ストン！ と一度、尻尾でつよく箱の底を打った。「なんの疑問もない」と言っているようだった。

……と、こんなふうに、ぼくが猫先生とやりとりするのも、広くくりでの擬人化に入るだろう。擬人化ふうというか。

先ほど、「擬人化は「万能の魔法」だと書いた。でも、万能であることと背中合わせに、逆に **X** ほんとうの理解から遠ざけてしまう弊害もあることに気づいているだろうか。

擬人化は、小説や映画やマンガやアニメ、SNS にテレビCM などなど、あらゆる場面で使われている。見渡せば、擬人化であふれているといつていくらいだ。

現実には動物たちと言葉を用いて会話することはできないのに、猫や犬が言葉をしゃべり、カウロウや馬が歌う。それはかわいらしい、どこかユーモラスである。動物たちへの親しみがグッと増す効果があるのはたしかだ。一見、何も悪いことはないように見える。

だけど、その表現は、どこまで動物自身のことを考えているんだろう？ と疑問に思うこともしばしばだ。たとえば、ある会社のCMでは、三頭の馬が並んで会社名が入った歌詞を歌うのだが、口を開けて歌うたびに、大きな歯が刺きだしになる。出っ歯に見えるおかしさを強調するように映像が作られていて、親しみをこめて馬を描いているようだけど、結局は、歯の大きな馬を笑い者(わら)にしているのではないだろうか。

猫や犬が時折見せるおかしなしぐさを、笑うことはぼくもある。毎日ある。クロスケ先生やチャシロ先生のことを、ちよつとぶきげた感じで書くのも、先生たちが見せる意外性のあるおかしみやかわいらしきを感じてほしいから。ただ、そこがキリキリなところで、

# 令和八年度 帝塚山中学校 二次 A 入学試験問題・国語 (その一)

どこかでばくも猫という種のことをかわいらしいオモチャのように扱っているのではないか、という疑いはゼロではない。

ただ、少なくとも、動物たちを笑う(見下して嘲笑する)ことを当たり前のこととは思わないように気をつけている。動物たちを見て「笑ってもいい」と思う気持ちの中には、「人間のほうが上で動物は下」という、動物たちを見下す気持ちがあるように思われる。そして、<sup>2</sup>人間とはちがう動物たちの姿を、その独特の姿やかわいらしきを利用して、会社名を宣伝するようなことはやらないように気をつけている(じゃあ、この本のタイトルに猫を持ちだしているのはどうなの? と問われたら、うう、たしかに猫のイメージで興味を持ってもらおうとしたことを白状します)。

ある動物を擬人化するとき、その動物を尊重する気持ちにもとづく表現なのか、逆にただ都合よく利用しただけの表現なのか、というところが、良い擬人化と悪い擬人化の別れ道になるのかもしれない。<sup>※</sup>肝心なのは、その動物に対する尊敬の念があるかどうかだ。

いちばんやっばいけな擬人化は、自分の苦しみを言葉で訴えることのできない動物たちの声を、人間に都合のよいかたちで勝手に作り上げることだ。それは動物たちの声を奪うことである。<sup>※</sup>盗むこと、といつてもいい。その<sup>3</sup>最たる例が、人間の食べ物にされる牛や豚や鶏に、「みなさんの命のために私の命をあげます。だからおいしく食べてね」などと言わせるような作品だ。数年前、ある新聞で、命の大切さを伝える絵本だと評判になっているという紹介を見て、その絵本を読んでみたら、まさにそのような作品で驚いた。ありえないと思った。

読者のみなさんは、これまでそのような作品を目にして、とくに疑問を感じなかったかもしれない。《Ⅲ》実際に牛や豚や鶏が屠畜(食肉に加工するために「屠畜」を殺すこと)される光景を目にしたら(ほくは映像で観た)、そんなセリフなんか完全な嘘っぽだとわかると思う。《Ⅳ》自ら進んで殺されに行く動物は絶対にはないから。彼らは最後まで怯えて、逃げられない柵の中でも必死にもがいて逃げようとしている。その姿は **B** 視するのがつらいほど痛ましい。動物たちの肉を食べるなら、<sup>4</sup>その現実を知つたうえで食べるべきなのだけど、ぼくにはその現場は完全に隠されている。

チャシロ先生が好きな猫じゃらしも、鳥の羽根や、何かの動物の皮を使っているものが多い。きつとそれらも、<sup>5</sup>たまたま死んだ動物の死骸から取ったものではなくて、猫のオモチャを製造するために大量に飼育した動物の体から取ったものだろう。だからぼくは、なるべく動物の素材を使わない猫のオモチャを使うようにしている。

百貨ショップで買った、プラスチックの羽根がついた猫じゃらしは、思った以上にチャシロ先生の<sup>6</sup>お気に召した。気分が乗るとダダダッ! と追いかける。猫じゃらしを振りながら聞いてみた。

「先生。これからも<sup>7</sup>『先生』とお呼びしてもいいですか」

ダダダダッ!

「擬人化について書いたら、『先生』と呼ぶのもなんか」

ダダダダッ! ズダッ! (方向転換した音)

「小バカにしているような気がしてきましたが」

ダダダダッ! ズザザザー!! (スライディングで仕留めた音)

猫じゃらしで遊ぶときの **C** は、最後は必ず猫が仕留めたところで終わらなければならないこと(でない自信喪失になるかもしれないから)。先生は仕留めた猫じゃらしに頭をこすりつけ、羽根をカブリと囁んだ。達成感と陶酔感が伝わってくる。ぼくの擬人化問題よりも、先生にはこの瞬間がすべてなのだ。

クロスケとチャシロを「先生」と呼ぶのも、質問に対するふたりの回答を想像するのも、ぼくが勝手にやっていることである。からかいと尊重のギリギリの狭間で、そのありえなさを遊んでいるともいえる。

気づいた方もおられるかもしれないが、そのふたりが実際に話した場面はぼくは書いていない。というのも、猫である先生たちの実際の気持ちは、結局はわからないという思いがあるからである。

この「わからない」という部分を保持しつづけることが大事じゃないかとぼくは思っているんだ。たどえかわいらしく、あるいはエトモラスに擬人化して動物たちのことがわかったような気になっても、それは「わかったような気」になっただけで、実際はどうなのか、ほんとうのことをぼくらは知らない。だから、「わからない」という余地を自分の中に残すことは、相手が自分とは異なる者であることを謙虚に認めることであり、それはつまり、相手の存在を尊重することにつながるのではないかと思う。

(木村友祐『猫と考える動物のいのち—命に優劣なんてあるの?』より)

※ 原木栽培: キノコの栽培方法の一つ。切った木にキノコの菌を植え付ける。

※ 泰然: ゆったりと落ち着いていて動揺しないさま。

※ 奪奪: 害になる悪いこと。

※ 肝心: 最も重要なこと。

※ クロスケ先生: 筆者が飼っている13歳の灰色の猫。

※ チャシロ先生: 筆者が飼っている推定13歳の茶色と白色の猫。

※ 陶酔する: ばかにしてわらいものにするこ。

※ 陶酔感: 心をうばわれてつとりすること。

令和八年度 帝塚山中学校 二次 A 入学試験問題・国語 (その三)

1 **A** に入る語句として最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。なお、**A** は本文中で二度使われています。

- ア お先真っ暗      イ おかんむり      ウ お蔵入り      エ お手上げ

2 《 I 》、《 IV 》に入る語として最も適するものを、それぞれ次の中から選んで答えなさい。ただし、同じ記号は二度使えません。

- ア だから      イ なせなら      ウ しかも      エ しかし

3 **B** にあてはまる漢字を一字で答えなさい。なお、**B** は本文中で二度使われています。

4 1「擬人化は『万能の魔法』だ」とありますが、「擬人化」によってどのようなことができるようになるのですか。次の空らん条件に合うように、1より前の本文からぬき出して答えなさい。

( 二十字 ) ことができるようになる。

5 2「人間とはちがう動物たちの姿を、その独特の容姿やかわいらしきを利用して、会社名を宣伝するようなことはやらない」とありますが、これは筆者のどのような考えによるものですか。最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

- ア 動物たちに人間の言葉を使わせて親しみを感じさせるようにすることは、動物たちから個性を奪う表現であるという考え。  
 イ 動物たちのありのままの姿を人間が好き勝手に使うことは、動物たちを見下して本来の尊さを奪う表現であるという考え。  
 ウ 動物たちにおかしなふるまいをさせて笑いをとることは、人間の動物たちへの愛情を奪っている表現であるという考え。  
 エ 動物たちを自分たちの事情に応じて適切に利用することは、動物に対する敬意が元になっている表現であるという考え。

6 3「最たる例」とありますが、これは何の例ですか。五十字程度で答えなさい。

7 4「その現実」とはどのような現実ですか。次の空らんの条件に合うように、本文からぬき出して答えなさい。

( 二十字 ) という現実。

8 5「たまたま」は、どこにかかりますか。最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

たまたま **A** 死んだ動物の死骸から取ったものではなくて、猫のおモチヤを **I** 製造するために大量に **ウ** 飼育した動物の体から **E** 取ったものだろう。

9 6「お気に召した」とありますが、「お気に召す」という敬語と同じ種類の敬語を、次から一つ選んで答えなさい。

- ア 先生にお手紙を差し上げる。  
 イ 今、大阪では雨が降っていますか。  
 ウ 会場にいらっしやうの方にお礼を伝える。  
 エ お客様のご希望をうかがってこよう。

10 7『先生』とお呼びしてもいいですか」とありますが、筆者はなぜこのように呼ぼうとしているのですか。最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

- ア 動物に対して「先生」というからかいの言葉を使うことで、動物を自分たちよりも愚かで幼稚な存在であると表現したいから。  
 イ 動物に対して「先生」と尊んで呼ぶことで、大きな感しを持たせ動物たちに大なる敬意を持っていることを表現したいから。  
 ウ 動物に対して「先生」という目上の人を表す言葉を使うことで、からかいながら同時にうやまつてもいる気持ちを表現したいから。  
 エ 動物に対して「先生」と人間のように扱って呼ぶことで、動物であっても人間と気持ちを通わせることができると表現したいから。

11 **C** には、「変えることのできない厳しいきまり」を意味する二字熟語が入ります。次の漢字の中から二字を組み合わせて答えなさい。

- 金 細 言 不 則 方 鉄 手

令和八年度 帝塚山中学校 二次 A 入学試験問題・国語 (その四)

12 〓 X 「ほんとうの理解」とありますが、「他者」を本当に理解するために必要なことは何だと筆者は述べていますか。次の空  
らん の条件に合うように、本文からそれぞれぬき出して答えなさい。なお、本文全体を読んで答えること。

人間が「他者」に対して ( a 二十字 ) ことにより、( b 八字 ) すること。

13 本文の特徴について説明したものとして、正しいものには A、誤っているものには B と答えなさい。

- A 様々な具体例を使って説明することで、筆者の意見を読者にわかりやすく伝えることができている。
- I 本文中で規則的に擬音語を使うことで文章にリズムが生まれ、本文全体に楽しい雰囲気を生み出している。
- ウ 筆者の意見とそれに対する反論を並べて提示することで、筆者の意見の正当性がわかりやすくなっている。
- E 筆者から読者に呼びかけるように文章を書くことで、読者が本文に関心をもちやすくなるようにしている。
- オ 筆者が意見を述べる際に根拠として専門家の意見も載せることで、自分の意見の正確さを主張している。

二 次 の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

高校一年生の日本カナは以前、木花咲季の通う「真立草ろう学校高専部」との交流会で彼女と出会ったことがあった。次の場面はカナが「ママン」の経営するカフェを訪れたところである。

「ママン、来たよー」

週明け、いつものようにお店に行くとビックリ、木花さんがいたのだ。さらに、もうひとり男性のお客さんも。

「瞬間「またしても！」と凍り付きそうになっただけ、あたしの指定席は空いていた。男性のお客さんも別の席だ。ホッとしたら、蒸し暑さが気になってきた。

木花さんの手元に置かれたアイステイのグラスは水溜をまどって、見るからに涼しそう。長い髪をかき上げながら本を眺める姿は、平安時代のお姫様が歌集でも読んでるみたいだ。心に反して、つい A で追ってしまう。

男性の卓舞台をひよいと覗くと、やっぱりアイステイがある。つられてあたしもオーターした。

早く自分の世界に籠ろう。指定席に座り、足を崩した。

背中から荷物が無くなったみたいに、気分が軽くなる。アイステイを飲みながら庭を眺めれば、<sup>1</sup>あたしの心は蝶になり、ひらひらと自由に舞い上がっていく。

廊下から足音が近づいてきた。ママンだ。話しかけようとしたら、一直線に木花さんの方に行ってしまった。<sup>2</sup>今はあたしだってお客さんなのに。

衝立の際間から、腰を下ろしたママンと木花さんが手で会話しているのが見えた。

〈む、から始まる歌は一首しかない。だから、読み始めた瞬間に下の句の……〉

木花さんは真面目な顔で、何度も何度も頷いている。

雑談じゃない、競技かるたの話をしているんだ。

B ママンが語る手の動きも大きく、表情もさらに豊かになっていく。

ママンが木花さんに教えている！あの美しく華やかな競技かるたを。ママンの世界へ誘っている、あたしじゃなく彼女を。

3 衝立を勢いよくどけた。あたしに背中を向けていたママンが、【 I 】とした顔で振り返る。

〈ママン、その子に競技かるた教えてるの？〉

〈そうだよ〉

なんで……あたしには教えてくれないのに。

〈カナは、やりたくないって言ったでしょ〉

どうして、ママンは分かってくれないんだ、あたしはたったひとりの姪っ子なのに。

木花さんがあたしを見ている。その目に抑えはない。同情か、憐れか。でも、そんなものあたしはいらない。

〈やりたくないんじゃない、やれなかったんだよ〉

——可愛い姪っ子ちゃん、会いたかった。

令和八年度 帝塚山中学校 二次A 入学試験問題・国語 (その五)

—カナは、アタシの一番の宝物だよ。

あんなに可愛がつくれたのに、大切にしてくれたのに。

4 揺るぎなかった大地に亀裂が入って、見えない底に落ちていく。

マンがあたしより彼女を優先するなら、あたしの味方をしてくれないなら、もういい。あたしはアラインを飛び出し、家に向かった。

視界がにじむ。すれ違ふ人たちが、**C**を丸くしてあたしを見る。喉に力が入らず、もう飲み込めない。目も鼻も**【 II 】**だ。

—バカじゃないの？ 子どもみたいに泣いてんじゃないよ、みともない。

—だって無理だよ、もう無理。苦しいんだもん、辛いんだもん。

5 頭の中で、自分同士がケンカしている。耳を塞いでも言い争う声が聞こえてきて、耐え切れず首を振る。

家が見えてきた。泣きやまなきや……と思えば思うほど、しゃくりあげる声が大きくなっていく。

顔が見えないように、お店にいた両親の間をすり抜け、自分の部屋に飛び込んだ。

**【 III 】**と縛りつけていた紐が切れた。言葉にならない言葉を叫ぶ。ベッドを叩きつける。それでも両親には聴こえない。気がつかなくていい。でも気づいてほしい。感情同士もケンカを始め、どうしていいか分からずベッドに伏せることしかできなかった。

心配がした。ドアが開いて、足音が近づいてくる。この雰囲気はきつと母だ。

顔を伏せたまま「あちへ行って」「ほっといて」と言っても母には伝わらない。顔を上げ、向き合わなければ。

—あたしは\*。

6 三つ星は決して離れず並んだまま宙をめぐる。荷う運命から逃れられないなら、せめてその重みを分かてほしい。

顔を拭い、体を起こした。あたしの涙なんて、赤ちゃんのころしか見たことないはずだ。戸惑いの表情を見せる母がベッドに腰かける。

〈どうしたの？ 何があった？〉

いつもだったら、7 ( ) 表情で両手を半回転して「何もないよ」の手話をして終了だ。

でも、心に溜まった濃は手の動きを爆発させた。右手が喉に伸び、下へ引きながら思い切り閉じる。「したい」の手話だ。

口を大きく開き、聴こえないのは分かっているけど叫ばずにはられない。

8 〈やりたいことがあるんだよ！ あたしだって〉

腐り、毒と化していた濃を吐き出した。

〈あたしは小さいころから通訳をやってきた。自分の時間を奪ってきたけど、大好きなお父さんとお母さんのためだから苦じゃなかったし、むしろ嬉しかったんだよ。でも、辛いついていう気持ちが生えてきて、大きくなっていった。そんなことをお母さんたちが知ったら、傷ついちゃう。だからあたしは自分を押し込めた。耐えろ、頑張れ〉

でも、限界が来た。今、あたしの何が壊れてしまった。

母はあたしの手話と泣き顔を、ただひたすら眺めている。感情を爆発させるあたしなんて初めてだから、どうしていいか分からないに違いない。喉が潤んでいる。

眉間をつまむようにし、手を開き指を揃えて下ろした。「ごめん」の手話だ。

〈お父さんもお母さんも、カナに甘えてた。進んで通訳してくれてたし。手話通訳の派遣を依頼したり、タブレットを使おうとするとカナがイヤがるから、逆に、頼まないといけないのかなど勘違いしちゃった。9 カナは我儘してるんだって思い至るべきだったのに……ごめんね〉

そうか。言わなきや、気づいてもらえないんだ。

〈……あたし、本当に大好きなんだよ。大切なんだよ、お母さんもお父さんも。あたしがいないことで、辛い思いをしたらイヤだったから。あたしが守らなきやと……〉

母はあたしの髪をツヤゲンヤとかきまわした。そして左手を握り、右手で何度も撫でる。愛おしそうに。

〈カナ、ありがとう。でもね、お父さんもお母さんも小さいころから訓練してきたし、世間の風にも当たってきた。カナの何倍生きると思うの？ だから大丈夫なんだよ。そんなに心配しなくても。お店だって〉

うん、うん。あたしは目を拭いながら頷いた。

〈でも、あたし目当てのお客さんが多いのも事実でしょ？ **D** だもん〉

母の動きが止まった。

〈まあ……常連さんたちは、孫娘みたいなカナの成長を見に来てるという側面もあるね〉

思わず、くすくす笑ってしまう。

令和八年度 帝塚山中学校二次A入学試験問題・国語 (その六)

( a )

( b )

( c )

( d )

母に氣を取られていたけど、ドアの陰に父が立ち尽くしていた。あたしと母の深刻な雰囲気、どうしたらいいのかわからないようだ。手拍きをすると、ママンと張り合うくらいの巨体を揺らしながら来た父は、あたしの右隣に腰を下ろし頭を撫でる。左隣の母は、あたしの背中を優しく叩いた。

ふたりから、温かい何かが届いてくる。

10 ……三つ星なんだな、あたしたち。連なることから逃れられない苦しさもあるけど、つながることで得られる安らぎもあるんだ。

一生分くらい泣いたその夜、寝る前にカーテンを開けてみた。夜空を見上げるなんて、中三の冬、一晩中オリオン座を眺めて以来だ。でも真上にある漆黒の空間に、あの三つ星はない。

スマホで調べてみたら、夏の夜空にオリオン座は見つけれないという。季節とともに移り変わる星座の「年周運動」で、同じ星座が見え始める時刻は一日に四分ずつ早くなる。冬の王者オリオン座は今の時期、太陽と共に昇るから星が明るすぎて見えないのだと。

11 たとえ姿は見えなくても、確かに存在しているんだ。温かい「何か」のように。

そういえば、アラインの本棚に色紙が飾ってあった。オリオンは天の聖歌隊で、宇宙の彼方から静かな合唱を送ってくるという、なんか難しい詩が。

目の前に広がる夏の星空も負けじと歌っているようだ。どんな歌詞なのかはわからないけど、今のあたしには応援歌のように感じられた。

(村嶋なつき『オリオンは静かに詠う』より)

※「お店」：ママンが経営する「おむとこさま専用」カフェのこと。後に出てくる「アライン」はその店名である。

※卓球台…低い食事用の台。

※郷郷…からかい。

※隣側…あわれみ。

※「お店」：カナの両親が経営する理容店のこと。

※コトダ…耳の聞こえない親の元に生まれ、手話を使いこなす人。

※殿…底にしずんだ、かすのようなもの。

1  A ・  C に共通して入る漢字一字を答えなさい。

2 —— 1「あたしの心は蝶になり、ひらひらと自由に舞い上がっていく」とはどのような気持ちですか。最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア おいしいアイステイを飲んだため、体も心も涼しくなって張り詰めた心が癒やされた気持ちになっている。

イ これから競技かるたの世界に飛び込むことが決まったので、心が浮き立ちワクワクする気持ちになっている。

ウ 好きな場所で自分一人だけの世界に入りこむことができるため、心が解放され、楽しい気持ちになっている。

エ いつもカフェにいる常連客との交流によって、辛い現実を忘れることができ、安心する気持ちになっている。

3 —— 2「今はあたしだけお客様なのに」とありますが、もともと「ママン」と「あたし」はどのような関係ですか。次の空らん条件に合うように、本文からぬき出して答えなさい。

あたしはママンの ( 十字 ) である。

4  B に入る言葉として最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア あたしがいるのに気づいていないのか

イ 彼女が乗り気でないのを感じたのか

ウ あたしにも気づいてほしいのか

エ 彼女の反応が嬉しいのか

令和八年度 帝塚山中学校 二次 A 入学試験問題・国語 (その七)

5 ー 3 「御立を熱いよくだけた」とありますが、「あたし」がこのような行動を取った理由として最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

- ア ママンと木花さんが話している内容に関心を持ち、自分ももっと話を聞きたいという強い願望をもったから。
- イ 楽しそうにママンと木花さんが話に熱中しているのを見て、自分の居場所を横取りされたような怒りを感じたから。
- ウ 自分が聞いていることに気がついているくせに、二人だけで話を進めていくことに悲しくなり感情が爆発したから。
- エ ママンが木花さんに話しかける様子からママンを取られるような気持ちになり、違う話題で関心を引こうとしたから。

6 【Ⅰ】と【Ⅲ】に入る語として最も適するものを、それぞれ次の中から選んで答えなさい。ただし、同じ記号は二度使えません。

- ア ぶちん                      イ はらはら                      ウ グシヤグシヤ                      エ キョトン

7 ー 4 「揺るぎなかった大地に亀裂が入って、見えな底に落ちていく」とはどのような気持ちを表していますか。最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

- ア あなたが大切だと語ってくれていたママンが、実は自分のことをそれほど愛してくれていなかったことを悟り、悔しさと怒りで震えている。
- イ 自分を愛し、理解してくれていたはずのママンが、あたしの気持ちをわかってくれていないことに対して不信感と絶望の感情を抱いている。
- ウ いつも自分を一番に愛してくれていたはずのママンが、競技かるたを優先するようになったことを知り、見捨てられた悲しさに打ちひしがれている。
- エ 自分の気持ちにいつも寄り添ってくれたママンが、自分の怒りを単なるわがままだと軽く見なしていることを理解しいらたちとあきらめを感じている。

8 ー 5 「頭の中で、自分同士がケンカしている」とありますが、これはどのような状態ですか。説明しているものとして最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

- ア 感情が暴走している状態を冷やかに批判する気持ちと、これまで押さえ込んでいた望みを訴えずにはいられない気持ちがせめぎ合っている状態。
- イ 自分の気持ちを理性的に捉えて納得しようとする気持ちと、自分の感情がわからず振り回され混乱している気持ちが対立している状態。
- ウ 泣いている自分の弱さを叱りつけて、強くありたいと思う気持ちと、弱い自分を否定せず受け入れようとする潔さが両方存在している状態。
- エ 自分の感情を否定しなければならないという悲しい気持ちが、木花さんに対する自分の嫉妬深さにいらだつ気持ちに飲み込まれていく状態。

9 ー 6 「三つ星は決して離れず並んだまま宙をめぐる」・ ー 10 「……三つ星なんだな、あたしたち」とありますが、それぞれの気持ちを説明したものとして最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

- ア 6 は毎日家族を守る役目を自分に課してしまう義務感を表現し、10 は刺激のない毎日を過ごすことの安心とあきらめの気持ちを表現している。
- イ 6 は自分の両親から離れることができない息苦しさを表現し、10 は一緒にいる喜びを受け入れながらも自分の人生に感じるむなしさを表現している。
- ウ 6 は常に自分を守ろうとしてかまってくる両親に対して感じる窮屈さを表現し、10 は家族みんなが平凡で単調な毎日を送る変化のなさを表現している。
- エ 6 はいつも両親と一緒にいて彼らを助けなければならない重苦しさを表現し、10 は一緒にいる家族は互いに支え合っているという信頼感を表現している。

令和八年度 帝塚山中学校 二次 A 入学試験問題・国語 (その八)

10 ——— 7 「( ) 表情」とありますが、( ) と同じ漢字が入る語を、次の中から一つ選んで答えなさい。

- ア ( ) 決            イ ( ) 行            ウ ( ) 礼            エ ( ) 可

11 ——— 8 「やりたいことがあるんだよ！ あたしたって」とあるが、「あたし」がやりたいこととは何ですか。本文から五字でぬき出して答えなさい。

12 ——— 9 「カナは我慢してるんだ」とありますが、その理由をカナはどのように述べていますか。次の空らん条件に合うように答えなさい。

( 六十字以内 ) と思っていたから。

13 D に入る語句として最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

- ア 孫娘            イ 一人娘            ウ 看板娘            エ 箱入り娘

14 ( a ) と ( d ) に入る会話文として最も適するものを、それぞれ次の中から選んで答えなさい。ただし、同じ記号は二度使えません。

- ア 〈もちろんだよ！ お姉ちゃんを稼<sup>かせ</sup>がせてあげなきゃ〉  
イ 〈実は…競技かるたもやりたいんだ。カフェに行った時に、ママンに教えてもらって。それも、いい？〉  
ウ 〈週末は今まで通りでいいよ。まずは平日から。学校帰りに、ママンのカフェにもっと寄つてもいい？〉  
エ 〈なんだ、もっと早く言つてよ。言われなきゃ分からないんだから。いや、親なのになんか気づいてあげられなかったんだよ。ごめん〉

15 ——— 11 「たとえ姿は見えなくても、確かに存在しているんだ」とありますが、カナがこのように感じたのはなぜですか。最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

- ア オリオン座の「年間運動」について理解し、目に見えなくても確かに存在している星の不思議さを理解したから。  
イ 物として手にとることはできないが、家族がお互いを思う気持ちは存在していることを両親とのふれあいで理解したから。  
ウ オリオン座の神話を知ったことで、今の自分たちと同様、昔の人も未知なる物に対する関心をもっていたことを理解したから。  
エ かつて読んだ詩から、人間は言葉にできないが他者に対する優しさや自己に対する厳しさを持ち合わせていることを理解したから。

16 本文の表現の特徴を説明したものととして最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

- ア 「背中から荷物が無くなったみたい」「感情回士もケンカを始め」のような擬人法を使うことによって、読者が物語の世界に入りこむことができる。  
イ 登場人物たちの短い会話がテンポ良く繰り返されるので、物語がリズムカルに展開していく印象を受ける。  
ウ 作者の視点から登場人物たちの心情を丁寧に描いているので、彼らの悩みや苦しみに読者が共感することができる。  
エ 「あたし」の視点から物語を進めながらその時の心情や思いが語られていることで、読者も一緒にその場面を経験しているような実感を持つことができる。

令和八年度 帝塚山中学校二次A入学試験問題・国語 (その九)

三 次の1～10の――部のカタカナを漢字に、11～15の――部の漢字をひらがなに直しなさい。

- 1 コウゴウ陛下のお誕生日に、多くのお祝いが寄せられた。
- 2 商品開発には、コサンの社員からのアドバイスが欠かせない。
- 3 その作家は、「散歩することがアイデアのゲンセンになっている」と語った。
- 4 明日、生徒会の役員を決めるトウヒョウが行われる。
- 5 今回は5日間のリョテイで四国を回ることにした。
- 6 雨の多い日本では、治山やサボウの工事が欠かせない。
- 7 研究のためならば、シヨコに自由に出入りしてかまわない。
- 8 平安時代の作品にはだれのチョジツク分からないものも数多くある。
- 9 私を救ってくれたあの言葉を、カタキも忘れたことはない。
- 10 才能は感じられるが、トウカクをあらわすにはまだ努力が足りないようだ。
- 11 相手チームのピッチャーの、力のこもった速球には手を出せない。
- 12 学校行事は、できるだけ生徒の総意をくんだものにしてほしい。
- 13 乾いた風が強く吹き、野火の恐れが高まっている。
- 14 父は険しい声で私を問い詰めた。
- 15 転校することが決まったとたん、様々な思いが去来した。

令和8年度 帝塚山中学校  
2次A入学試験問題・国語 解答用紙

受験番号

--	--

ここにシールを貼ってください



261310

二

3	1		13	12	8	7	6	5	4	1
	2		ア イ ウ エ オ	b a	9 10 11					2 I II III IV 3

一

三

13	9	5	1	15	14	13	12	9	6	4
14 しい 15	10 カ ト ウ カ ク 11 12	6 リ ヨ テ イ サ ボ ウ シ ヨ コ 8	2 コ ウ ゴ ウ コ サ ン ゲ ン セ ン 4 ト ウ ヒ ヨ ウ		a b c d			10 11	I II III 7 8	5

と  
思  
っ  
て  
い  
た  
か  
ら  
。

受験番号

ここにシールを貼ってください



261310

二

3	1	13	12	8	7	6	5	4	1	
た っ た ひ と り の 姪 っ 子	目   ウ	ア A イ B ウ B エ A オ B	a の 中 に 残 す (「わからない」という部分を保持しつづける) 「 わ か ら な い 」 と い う 余 地 を 自 分	ア 9 ウ 10 ウ 11 鉄 則	対 に い な い  自 ら 進 ん で 殺 さ れ に 行 く 動 物 は 絶	上 げ る 擬 人 化 。  に 都 合 の よ い か た ち で 勝 手 に 作 り	の で き な い 動 物 た ち の 声 を 、 人 間	自 分 の 苦 し み を 言 葉 で 訴 え る こ と	イ   に と ら え る  わ か ら な い 相 手 の こ と を 自 分 の 中	エ 2 I ウ II ア III エ IV イ 3 正

三

13	9	5	1	15	14	13	12	9	6	4			
の び	片 時	旅 程	皇 后	イ	ウ	ウ	を 両 親 が 知 っ た ら 傷 つ い て し ま う	持 ち も 生 ま れ て い た が 、 そ の こ と	の 時 間 を 使 う こ と を 辛 く 感 じ る 気	大 好 き な 両 親 の 通 訳 と し て 、 自 分	エ 10 ウ 11 競 技 か る た	I エ II ウ III ア 7 イ 8 ア	エ 5 イ
14	10	6	2	16	エ	と思 っ て い た か ら 。							
け わ し い	頭 角	砂 防	古 参										
15	11	7	3										
き ょ ら い	そ っ き ゅ う	書 庫	源 泉										
	12	8	4										
	そ う い	著 述	投 票										
		カ タ ト キ	コ ウ ゴ ウ										
		リ ヨ テ イ	コ サ ン										
		サ ボ ウ	ゲ ン セ ン										
		シ ヨ コ	ト ウ ヒ ョ ウ										
		チ ョ ジ ユ ツ											